

ネットワークボード

厚生労働省で、グループホームの現在の類型を変更し、「自立支援型」と「一般型」に整理しようとする動きがあります。確かに一人暮らしを希望する人もグループホームに入居せざるを得ない現状があるのはわかります。自立生活援助やヘルパーなど、一人暮らしを支援する制度の使い勝手がまだまだ悪く、なかなか広がらないという課題と相まって、「出たいけど出られない」というジレンマを生んでいることは現場を運営している私たちとしても理解しています。まさに「制度に無い生き方は選べない」という状態です。でも、だからと言って支援区分で縦割りし、「あなたは自立支援型でいずれ地域社会に出ていく人」と決めてしまう(と捉えられかねない)のもまた違うと私たちは考えていま

す。もちろん資料には「グループホームで暮らし続けたい人が疎外されないよう配慮する」と書いてありますし、そこに期待はしていますが、いずれにしても、今回の検討において、①今まで「生活の場」であったグループホームを「訓練の場」にしようとしている。②その検討のプロセスにおいて、どれだけの当事者、支援者、事業所の意見を盛り込んだのが不透明、という解釈が多く、署名運動にまで発展をしています。

「自分の人生を他人に決めさせない」。ぜひ活発な議論の上での改正であってほしいと考えています。

署名運動はこちらからご覧下さい。

<https://chng.it/8nCGgkkNfT>



編集後記



昨年の7月におかし屋ぱれっとを退職してから1年が過ぎ——復帰して早2ヶ月が過ぎようとしている。障がい者アートを支援する道に進みたいという思いでぱれっとを離れることを決断したにも関わらず、自らの意思で今年の8月にまた戻ってきた。1年間別の法人で働き、良き職場に恵まれてはいたが、ぱれっとで過ごした日々やメンバーたちのことが頭をよぎり、再び一緒に働きたいという思いが日に日に強くなっていったのだ。この思いを打ち明け、温かく迎えてくれたぱれっとの皆さんには感謝しかない。

今現在、新型コロナウイルスの蔓延は収まってきたように感じる一方、まだまだ油断はできない状況だ。関係者皆の協力のもと、密を避けるために分散通所とアルコール消毒等の強化、対面式での昼食の回避を続けている。そんな困難な状況下であっても、皆の笑顔は変わらない。それどころか、今年の4月に2名、8月に1名と新しいメンバーが増え、以前よりもますます賑やかになった。とにかく今は一日も早く、毎日ぱれっとに通所できる日が来て、一つのテーブルで笑いながら昼食を食べる日が来ることを願うばかりだ。

(まつもと)